

船橋駅・船橋市場周辺の街歩き(参考資料)

海老川 13 橋の架け替え

海老川・長津川の洪水被害が相次いだことを受け、**40 年前、昭和 61 年、1986～**、地域の復興と河川改修工事が行われる中、橋の架け替えも進められた。**平成 4 年、1992 に工事完了**、橋も現在の姿になった。欄干のオブジェやレリーフに凝った橋が実現。漫画家の牧野圭一の企画といわれる。

★13 橋の最後の架け替え(平成 4 年)が**太郎橋**

欄干に 4 太郎のオブジェが飾られている。金太郎、桃太郎、浦島太郎、ものぐさ太郎の 4 つ。ものぐさ太郎は認知度が低いと思うが、室町時代に作られた立身出世の話らしい。

海老川・長津川十四福像

豊かな環境の復活と市民の健康づくり、七福神と十二支のコンセプトが複雑に交錯する企画。河川改修工事の完成を見据えて、市が推進し、市民の寄付を募って作られている。

こちらも牧野圭一がデザイン、海老川改修工事が終了した平成 4 年、1992 年には十福神が完成、後に追加され、干支との関係付けがなされて 12 となり、最終的に七福神の 2 倍、14 となったようである。

★太郎橋のたもとにある「**ほていあおいの命**」像

七福神の布袋様と、水の浄化に役立つとされる水生植物のほていあおいを掛けた神様。きれいな水の復活の願いが込められている。

★船橋市場にある「**手長海老寿老人**」像

七福神の寿老人と、かつては海老川に生息し貴重なタンパク源であった手長海老をかけた神様。豊かな海老川の復活の願いが込められている。

船橋市場リニューアル計画

駅前などに複数あった民営の市場を移転統合し、昭和 44 年(1969)、国が監督する「中央卸売市場」を開設、千葉県が生鮮食品の広域的な拠点市場として事業を展開、平成 26 年(2014)に、都道府県が監督する「船橋市地方卸売市場」に転換し、今日に至る。施設の老朽化のため全面リニューアルを計画したが、建設業者の入札が不調で、工事が進まず(海老川の東エリアに施設を集中し、運営を効率化する計画)。

JR 市場町社宅跡地開発計画

JR 東日本と東急不動産により、1000 戸規模の高層マンションと商業施設を建設する再開発工事が進行中。2028 年度中には完成予定。区域内に新たな緑地スペースも生まれ、市民に開放される見込み。

武道センター

剣道、柔道、相撲などの大型稽古施設。昭和 62 年、1987 年の竣工から 39 年を経て、2026 年 4 月改装オープン。空調を完備、エレベータが設置され、階段の段差の緩和、手すり、スロープ設置、トイレのバリアフリー化もなされた。お城のような門や塀をなくし駐車場を拡張したが、デザイン上の個性は薄まった。

★人道橋

車は通れない橋。市場小学校への通学路として、また船橋駅方面への抜け道として、地域の人には欠かせない存在と思われる。13 橋には入らない。

★新海老川橋

船橋のにぎやかな祭がテーマ。欄干に子供の音楽隊や、ばか面おどりの像が載っている。東の橋のたもとに十四福の 1 つ、**清水弁天像**がある。きれいな湧水の流れの回復することが祈願されている。

★初代橋(はつよばし)

平成 20 年、2008 年、京成本線が高架化された後に完成。太宰治ゆかりの九重橋の隣に寄り添う橋、という意図で、地元の有志が太宰治の内縁の妻の名から命名したとのことだが、橋名プレートは外されている。正式には海老川 12 号橋というらしい。13 橋には入らない。

★九重橋

船橋ゆかりの文豪、太宰治の肖像と、作品「走れメロス」の一節を刻んだレリーフが、橋の欄干にデザインされている。※**太宰治旧居跡**が近くにある。昭和 10 年、1935 年 7 月から、内縁の妻、小山初代と 1 年余り当地で暮らしている。太宰 26 歳、初代 23 歳だった。